

災害適用事例 1

平成26年8月豪雨による広島市内での土砂災害に対する緊急対策として「土石流・流木捕捉緊急対策工」(通称:強靱ワイヤーネット)が砂防・林野分野で37箇所を採用・施工されたました。砂防堰堤完成までは時間を要することから、仮設緊急対策として施工され、現在では砂防堰堤工事完了に伴い、その多くが撤去、他の箇所へ転用されています。

中でも被害が大きかった広島市安佐南区の小原山川に適用された事例を紹介します。

「強靱ワイヤーネット」の名称は当時に名付けられたものです。

被災状況

高瀬雨量観測所
総雨量 247mm
最大時間雨量 87mm

ハヤマガワ
小原山川

土砂氾濫区域

八木用水

古川

鉄道

小学校

国道54号

至：可部

至：広島市街

国土交通省発表「平成26年の土砂災害」より写真抜粋・追記

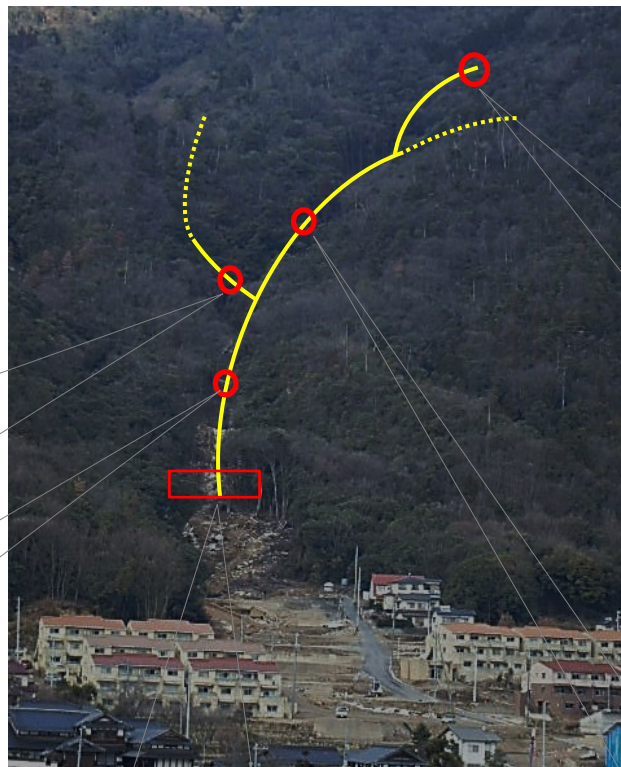
被災状況



被災地上流の状況



溪流沿：至る所に不安定な岩塊が残存



土石流・流木捕捉緊急対策
工計画位置



源頭部：不安定土砂が多量に残存



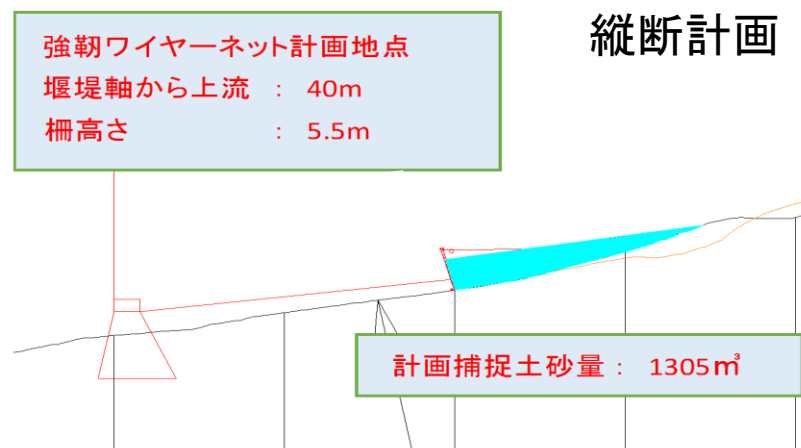
上流側：不安定土砂・大きな岩塊が多量に残存



下流側：岩盤が露出・不安定土砂無

調査・計画

現地調査に基づき、砂防堰堤計画および土石流・流木捕捉緊急対策工を計画
施工位置・施工計画・工程を決定



施工完了



<土石流・流木捕捉緊急対策工の経緯>

平成26年	8月20日	土砂災害発生
	8月27日	現地調査・設計開始
	9月29日	工事着手
	10月29日	工事完了
	10月31日	マスコミで施工完了を報道
平成27年		砂防堰堤工事開始

<工法選定・採択の主なポイント>

- ① 同構造のTAMPOバリアが土石を捕捉した実績が複数あったこと。
- ② 設計・施工方法が確立されていたこと。
- ③ 短期間施工が可能であること。（約1ヶ月）
- ④ 材料が軽量で最小進入路幅が小さいこと。（最小1.5m）

砂防堰堤工事状況 平成28年1月

